

道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日 〇校時
2年〇組 指導者 〇〇〇〇
場所 2年〇組教室

【授業の視点】

約束やきまりを守り、みんなで使う物を大切にすることのよさを考えるために、自分勝手な行動をしてしまった登場人物や周囲の友達の気持ちを顔マークで表現させ、可視化する活動を取り入れたことは有効であったか。

I 主題名 一りん車 [C-(10)規則の尊重]

II 考察

1 学習指導要領上の位置付けと本主題の道徳的価値について

第1学年及び第2学年 内容項目 [C-(10)規則の尊重]

「やくそくやきまりを守り、みんなが使うものを大切にすること。」

規則を尊重することは、社会や集団の一員として生活する上で欠かすことができない。人々が法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、よりよい在り方について考えることは、安心して過ごすことができる社会につながる。また、一人一人が約束を守るために、何をすべきか判断し行動することは、よりよい人間関係を築くことにもつながる。

この時期の児童は、学級などの集団生活を送る中で、約束やきまりは守らなければいけないということや、みんなで使う物は大切にしなければいけないということは理解している。しかし、教師や親、周囲の友達に注意を受けることを理由に、それらを守ろうとしていたり、自分の思いが先立ち、周囲のことを考えずに、自己中心的な行動をしたりしてしまい、友達とトラブルを起こすこともある。

そこで、指導にあたっては、約束やきまり、特に、みんなで使う物について、自分さえよければという使い方をしてしまうことの問題について話し合う活動を設定し、みんなで使うものをどのように使えばよいかを考えることで、約束やきまりは、みんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることに気付かせ、進んで守ろうとする態度を養ってほしい。

この内容は、今後、中学年においては内容項目C(11)として「約束やきまりの意義を理解し、それらを守ること」、高学年では内容項目C(12)として「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切し、義務を果たすこと」へ発展する。

2 教材について

教材名「一りん車」(日本文教出版)の価値は、以下の通りである。

ひでくんとまさきくんは、人気のある一りん車で遊びたいという気持ちから、友達にとられないよう、みんなで使う一りん車を体育倉庫の裏に隠した。次の休み時間も二人は一りん車で楽しく遊ぶことができた。次の日、朝礼で先生から一りん車が隠されていたという話を聞き、まさきくんは胸がちくり痛くなり、ひでくんも下を向いて困った顔をしていた。

自分勝手な行動が、周囲の友達に迷惑をかけていたことに後で気付く主人公の姿は、子供たちの身近な生活にも起こり得ることである。本資料は、二人の行動や気持ちに共感しながら自己を見つめることができるとともに、約束やきまりを破る自分勝手な立場、迷惑を受けた立場と視点を変えることもでき、みんなで使う物を大切にし、自分もみんなも安心して気持ちよく生活するために大切なことを考えることができる適切な内容である。

3 本主題に関わる児童の実態

Ⅲ 指導方針

<事前>

- ・児童が本音で語るなど意見や考えが、受容的に受け止められる学級経営を日常的に行う。
- ・本時に扱う道徳的価値に関わる、みんなで使う物や、使い方などのアンケートを実施する。

<本時>

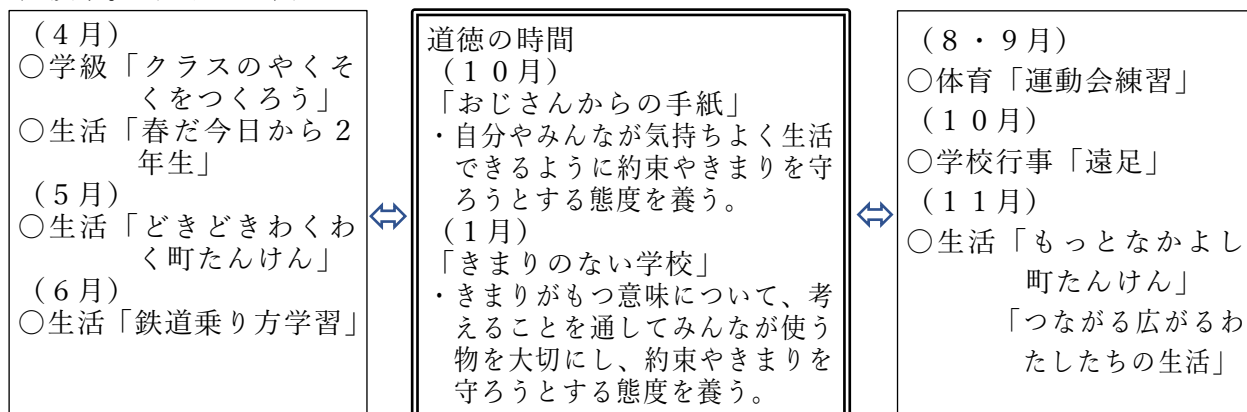
- ・導入では、本時で扱う道徳的価値について問題意識をもち、価値への方向付けができるよう、トイレのスリッパ、学級文庫の本など、みんなで使う身近な物の写真を提示する。
- ・教材文の大まかな内容や場面、主人公の気持ちの変容を把握できるように、人物絵や場面絵を有効的に活用する。
- ・登場人物の気持ちの変化を捉えやすいよう、資料を「一りん車で楽しく遊ぶ」前半の場面と、「先生の話聞く」後半場面とに分けて気持ちを整理する活動を設定する。
- ・みんなで使う物を自分勝手に使ってしまった登場人物の気持ちを一人一人の子供が表現できるように、顔マークを用いて可視化する活動を設定する。
- ・終末においては、これからの生活における道徳的実践意欲につながるよう、今までみんなで使うものを大切にできていたかなど、自己の生活を振り返る場を設定する。

Ⅳ 指導の計画（他領域・行事との関連）

<事前指導>・学級活動において、みんなが安心して楽しく過ごすために、学級に必要な約束やきまりについて話し合う。

<事後指導>・本時で使用した写真資料などを教室に掲示し、みんなで使う物を大切にしようとする心情を育てる。

<他領域・行事との関連>



V 本時の学習

1 ねらい

みんなが使う物を自分勝手に使ってしまうと判断したことが、どのような結果につながってしまうか考えることを通して、みんなが使う物を大切に、みんなが安心して気持ちよく過ごすことができるようにしようとする道徳的心情を育てる。

2 準備・資料

(教師) 事前に実施したアンケート結果、場面絵、顔マーク、振り返りシート、日常の中でみんなが使う物の写真

(児童) タブレット端末

3 本時の展開

学習活動と子供の意識	時間	指導上の留意点・支援
1. 本時で扱う道徳的価値ついて問題意識をもつ。 ・みんなが使う物を大切にできなかったこともあるな。	5	○みんなが使う物を大切にすることについて、問題意識をもつことができるよう、身の回りにある、みんなが使う物や使い方に関わるアンケート結果を提示し、大切に使用しているかを問いかける。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて：なぜ、みんながつかうものを大切にするのでしょうか。</div>		
2. 教材文（前半）の範読を聞き、一輪車で遊んでいる時の二人の気持ちを考える。	10	○教材文（前半）の大まかな内容が捉えられるよう、登場人物の気持ちや、場面の状況などに着目しながら、範読を聞くよう促す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○発問「二人はどのような気持ちで、一りん車を隠したのでしょうか。」</div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・一りん車で遊ぶのは楽しいな。 ・たくさん練習してもっと上手に一りん車に乗れるようになりたいな。 ・一りん車遊びは人気があるから、他の友達に使われてしまうかもしれないな。そしたら、遊べなくなってしまう。 ・次の休み時間も、一りん車で遊びたい。 ・隠しておけば、他の友達に使われないから、また、次の休み時間も遊べるよ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○二人に悪気はなく、周囲のことに気にしていない様子を捉えられるよう、一りん車で遊ぶことに夢中になっている場面絵を提示し、その様子を問いかける。 ○前半の場面の二人の気持ちを考えやすいよう、登場人物の気持ちを表す顔マークを提示し、どの顔マークが適しているかを問いかける。 ○学級全体で前半の場面における二人の気持ちを共有できるよう、一人一人に二人の気持ちを表している顔マークをタブレット端末で選び、教師用端末に送信するよう促すとともに、二人の表情をまとめ、黒板に貼る。 ○二人の行動を「友達に迷惑をかけようとしていた。」など批判的に捉えてしまう児童に対しては、夢中に何かをしている時の気持ちを自分たちの経験と重ねて考えるよう促す。

<p>3. 教材文（後半）の範読を聞き、その場面の二人の気持ちや、周囲の友達の気持ちについて話し合う。</p>	<p>20</p>	<p>○登場人物の気持ちの変化を捉えやすいよう、後半の場面における登場人物の様子を表す場面絵を提示し、前半の場面との違いを問いかける。</p>
<p>◎中心発問「先生の話聞き、二人はどんなことに気づいたのでしょうか。」</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちだけで一りん車を使おうとするのはいけないことだったな。 ・みんなで使う物だったことを忘れてしまっていたな。 ・一りん車を使いたいのは、自分だけではなかった。 ・みんなにも嫌な思いをさせてしまったな。 ・みんなに謝らなければいけないな。 		<ul style="list-style-type: none"> ○先生の話聞いていた時の二人の気持ちを考えられるよう、自分が二人の立場でその場所にいたら、どのような気持ちになるか問いかける。 ○みんなで使う物を自分勝手に使うことがどのような影響を及ぼすのか多面的・多角的に捉えることができるよう、二人だけでなく周囲の友達、どのような気持ちになっているかを問いかける。 ○異なる立場の人々の気持ちを一人一人が表現できるよう、二人、友達、先生の気持ちに近い顔マークをタブレット端末で選び、送信するよう促す。
<p>○補助発問「二人が、一りん車で遊びたかった気持ちは、わかりますか。」</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・二人が遊びたいと思った気持ちはわかるな。自分も同じようにしてしまったかもしれないな。 ・それでも、みんなで使うものを自分勝手に使ってはいけないなかったと思う。 ・自分たちのことだけではなく、みんながどのような気持ちになるか考えることは大切だな。 		<ul style="list-style-type: none"> ○「隠して遊ぼう」と誘われた際、断われたとしても、その言葉の裏に遊びたいという気持ちもあることを実感できるように、「一りん車を隠そう」と誘う立場と誘われる立場とで役割演技をする場を設定する。 ○自分のことだけでなく周囲の友達のことを考えることも大切であるということに気付くことができるよう、二人にどのような気持ちが必要であったか問いかける。
<p>4. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願いを考え振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だけでなく、みんなが気持ちよく過ごすためにも、みんなが使う物を大切にしたいな。 	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○これからの生活における実践への意欲を高められるよう、並べられていないトイレのスリッパや整理されていない学級文庫などの、日常の写真を提示するとともに、今後の自分の生活の在り方について振り返りシートに記述するよう促す。

<p>【評価の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることのよさについて考え、これからの自分の生活でどのように行動するか記述している。 <p>※評価方法：振り返りシート・発言</p>
--